

会 議 録

会議の名称	第一回（仮称）茨木市地域コミュニティ基本指針検討委員会
開催日時	平成23年6月24日（金） （午前・午後） 4時30分 開会 （午前・午後） 5時30分 閉会
開催場所	茨木市役所南館10階大会議室
議長	齋藤雅通氏（立命館大学経営学部教授）
出席者	齋藤雅通氏（立命館大学経営学部教授）、阿部圭宏氏（市民が支える市民活動ネットワーク滋賀代表）、山口正弘氏（茨木市自治会連合会会長）、香川とく子氏（自治会長）、秋元文孝氏（公民館連絡協議会会長）、池上日出雄氏（コミュニティセンター管理運営委員長）、浜野宏樹氏（青少年健全育成協議会）、森下恭子氏（水尾地区福祉委員長）、岡野清幸氏（公募委員）、上村智子氏（公募委員） （10人）
欠席者	（0人）
事務局職員	野村市長、山本副市長、大西市民生活部長、原田市民活動推進課長、青木市民活動推進課長代理、福岡市民活動推進課職員、有限会社コラボねっと石井、有限会社コラボねっと中西 （8人）
議題（案件）	(1)会議公開、非公開について (2)指針の概要、茨木市の現況、今後の予定について (3)その他
配布資料	・第1回（仮称）茨木市地域コミュニティ基本指針検討委員会次第 ・（仮称）茨木市地域コミュニティ基本指針検討委員会委員名簿 ・（仮称）茨木市地域コミュニティ基本指針検討委員会設置要綱 ・（仮称）茨木市地域コミュニティ基本指針の概要 ・地域担当職員制度パンフレット ・人口や世帯数による茨木市の現況 ・茨木市審議会等の会議の公開に関する指針

議事の経過

○青木 本日は大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただいまより、第一回目の（仮称）茨木市地域コミュニティ基本指針検討委員会を開催させていただきます。本日の司会をいたします、市民活動推進課の青木でございます。よろしくお願いいたします。委嘱状につきましては皆様方の席に置かせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。まず初めに、野村市長からご挨拶申し上げます。

野村市長 皆さん、こんにちは。野村でございます。本日は 1 回目の（仮称）茨木市地域コミュニティ基本指針検討委員会を開催いたしましたところ、何かとご多用の中、ご出席をいただきましてまことにありがとうございます。また、快く委員をお引き受けいただきましたこと、重ねて厚く御礼を申し上げます。

さて、本市では市民参加のしくみづくりを掲げまして、市政への参加、参画の促進、市民や NPO 等の自立的な公益活動の支援、促進などを将来計画といたしまして、市民、協働のまちづくりを目指しているところでございます。これに伴いまして、行政、地域等が一体となって進める地域づくりの基本的な考え方を明らかにするコミュニティ基本指針の策定を、平成 24 年度に予定をいたしております。

そのための検討委員会の設置をさせていただきます、さまざまなご意見をいただきながら、成案としてまとめてまいりたいと考えているところでございます。

委員の皆様におかれましては、いろいろとご苦勞をおかけするところもあると思いますが、本市の地域コミュニティの現状を踏まえまして、今後のあり方、また方向性等につきまして、活発なご協議を賜りますよう、よろしくお願いいたします。簡単ですが、ご挨拶にさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

○青木 それでは本日、第一回目の委員会でございますので、皆様それぞれ一言・・・よろしくお願いいたします。お配りいたしております、次第の次のページにございます。委員名簿順に自己紹介、団体とお名前をよろしくお願いいたします。初めに、立命館大学の齋藤先生、よろしくお願いいたします。

齋藤 立命館大学経営学部の齋藤でございます。よろしくお願いいたします。

阿部 阿部圭宏と申します。滋賀県大津市から来ております。市民が支える市民活動ネットワーク滋賀、市民ねっとと通称で呼ばせていただいております。NPO の支援をしております。よろしくお願いいたします。

山口 茨木市自治会連合会会長をしております山口でございます。よろしくお願いいたします。

香川 昨年、自治会長を仰せつかっておりました香川と申します。住まいは学園北でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

秋元 茨木市公民館連絡協議会会長の秋元です。よろしくお願いいたします。

池上 失礼いたします。池上でございます。豊川コミュニティセンター管理運営委員ということで現在、やっておりますけれども、茨木市全体のコミュニティセンターの管理運営委員長会議というのがございまして、その代表として参加させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

浜野 私、青少年健全育成運動協議会の役員をしております浜野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。茨木市の青少年健全育成は小学校区と中学校区の２種類あるのですが、私は小学校区のほうです。私の住んでいるところは郡地区になります。よろしくお願いいたします。

森下 水尾地区福祉委員長の森下と申します。よろしくお願いいたします。

岡野 大日本住友製薬の岡野と申します。事業所のほうで防災管理を担当しております。地域コミュニティを考えるとということでは、防災という部分が大事な部分でございますので、「行って来い」ということを言われておりまして、本日、参加させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

上村 市民委員の上村智子です。茨木市地域コミュニティ基本指針を検討されることはとても意義深いことだと思っております。これからもがんばります。よろしくお願いいたします。

青木 ありがとうございます。それでは次に市側の職員の紹介をいたします。まず先ほどご挨拶申し上げました野村市長です。

野村 野村でございます。

青木 市民生活部市民活動推進課を担当しております山本副市長でございます。

山本 山本でございます。どうぞよろしく。

青木 市民生活部長の大西でございます。

大西 大西です。よろしくお願いいたします。

青木 市民活動推進課長の原田でございます。

原田 お世話になります。よろしくお願いいたします。

青木 市民活動推進課の福岡でございます。

福岡 福岡と申します。よろしくお願いいたします。

青木 私、市民活動推進課課長代理の青木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

基本指針策定にあたりましては有限会社コラボねっとさんにさまざまな事務処理や全国での事例紹介などをお願いしております。コラボねっとさんは現在、市で進めております地域担当職員制度につきましてもお手伝いをいただいております、職員と共に地域活動にご参加いただいているところから、茨木市の地域の実情も一定、ご理解をいただいております。

それでは一言ずつご挨拶をお願いいたします。

石井 コラボねっとの石井布紀子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

中西 同じく、コラボねっとの中西頼子と申します。よろしくお願いいたします。

青木 どうもありがとうございました。ここで野村市長、山本副市長は別の公務で退席させていただきます。

(野村市長、山本副市長 退席)

青木 それでは委員会を早速始めさせていただきたいと思っております。まず名簿の次のページに、検討委員会設置要綱を付けさせていただいております。この設置要綱の中で第6ですけれども、会議は委員長が召集し、その議長となり、となっておりますが、本日はまだ委員長が選任されておられませんので、事務局として大西市民生活部長が会議を進行させていただきます。よろしくお願いいたします。

大西 まことに僭越ではございますが、委員長が選出されるまでの間、会議を進行させていただきます。よろしくお願いいたします。まず委員長等の選出について協議いたします。事務局から説明をお願いいたします。

○原田 座ったままで失礼いたします。当委員会の委員長、副委員長の選任につきましては地域コミュニティ基本指針検討委員会設置要綱第5によりまして、委員の互選となっておりますが、皆様には本日、初めてお集まりをいただいております、各委員をご承知でない方もおられるかと思っておりますので、事務局のほうで案としてご提案させていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

○皆様 はい。

○大西 ただ今事務局から委員長、副委員長を推薦したいという提案がありましたが、いかがいたしましょうか。よろしいでしょうか。

皆様 異議なし。

大西 事務局案の説明をお願いします。

原田 ご説明申し上げます。ご承知のことと思いますが、昨年、本市岩倉町のサッポロビール工場の跡地に立命館大学の進出が決定をいたしました。茨木市におきましては大きなプロジェクトでありまして、今後のまちづくりも共に進めていくこと等も考慮いたしまして、立命館大学に委員の就任をお願いさせていただきまして、本日お見えの齋藤教授に委員としてご推薦いただいたものであります。事務局としましては様々な学会等でコーディネーター経験もおありの齋藤先生を委員長にと考えております。また、副委員長にはまちづくり関連の NPO の理事長でもあります阿部さんにご就任いただけたらというふうに考えております。事務局案としては以上でございます。

大西 説明は終わりました。何かご意見はございますでしょうか。

皆様 異議なし

大西 異議なしということで、委員長に齋藤委員、副委員長に阿部委員を決定させていただきます。

それでは委員長が決定いたしましたので、進行役を交替させていただきますので、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

○青木 それでは齋藤委員長、委員長席をお願いいたします。委員長、副委員長、おそれいりますが、一言ずつ申し訳ございませんが、よろしく願いいたします。

○齋藤 ただ今委員長に選任させていただきました、立命館大学経営学部の齋藤でございます。立命館大学としましてもこの茨木市に新たなキャンパスをつくるということで、まだ先ではありますが、この茨木市のコミュニティと共に新たな学園作りを進めていきたいと思っておりますし、立命館大学も茨木市のために、コミュニティのために、貢献していきたいと思っております。私の専門は経営学の分野でありますけれども、都市経営のことについても少しは研究をしたこともございます。今回のコミュニティの基本指針の策定に当たって微力ながらお役に立てればと思っております。どうか皆様よろしく願いいたします。

○阿部 僭越ながら副委員長をさせていただきます。私はあまり出番はないとは思いますが、委員長をサポートしながら、皆様方のご意見をうまく出していただいて、いいコミュニティ基本指針ができることを期待しておりますので、活発なご意見を出し

ていただくことをお願いしたいと思います。

○青木 ありがとうございます。それでは引き続き、委員長、進行をお願いします。よろしくをお願いします。

斎藤 まず初めに協議事項の 1 の会議の公開・非公開を議題といたします。事務局からご説明をお願いいたします。

原田 それではご説明をいたします。資料 4 の審議会等の会議の公開に関する指針をご覧ください。茨木市では情報公開条例に基づきまして審議会等の会議の公開に関する指針を定めております。審議会等の会議の透明性を図るため、個人情報に関する情報などを除いて、原則、公開するものとなっております。公開・非公開は審議会等の長が当該会議に諮って決定することになっております。また、会議の公開だけでなく、終了後、ホームページ等で審議内容を公表するように努めるとなっております。公開と決定いただきましたら、会議終了後、議事録を調整、各委員にご確認いただいた後、ホームページに掲載いたしたく考えております。以上でございます。公開ということでご異議はございませんでしょうか。それでは、原則公開ということと決定いたします。それでは傍聴の方がいらっしゃれば入場していただいでください。

(傍聴の方、入場)

斎藤 傍聴の方が入場をいたしました。傍聴者の方につきましてはお渡ししております傍聴要領を遵守していただきますようお願いいたします。

次に協議事項 2 の基本指針の概要と茨木市の現況、今後の予定について事務局から説明をお願いいたします。

原田 それでは資料 1 を見ていただけますか。茨木市地域コミュニティ基本方針の概要という資料をご覧くださいでしょうか。そこに基本的に書いている内容になりますが、指針策定、検討委員会設置の目的ですが、人々の意識の変化や生活様式の多様化の中で、地域社会を取り巻く環境は大きく変化しておりまして、様々な地域の課題が山積しているのが現状であります。これらの課題解決と共に、真に豊かで持続可能な地域社会を目指すためには、地域住民が一体となり、市民自らの協議や行動を活かし、行政と共に地域の課題解決に取り組んでいく必要があります。これらの課題解決の基礎であります、地域コミュニティの希薄化が大きな社会問題となっております。そこで、それらを活性化し、時代に合った地域コミュニティを構築していかなければならないと考えております。茨木市におきましては、それぞれの地域で活発に地域活動が展開されておりまして、また、行政でも地域コミュニティの活性化施策を展開しているところではあります。共に共有できる、地域コミュニティのあるべき姿を示す指針となるべきものが無いのが現状であります。そこで、茨木市の地域の現状を踏まえまして、そして将来の茨木市の地域のあるべき姿を見据えた地域コミュニティの推進に関する基本指針を策

定いたしました。市民、地域、行政が共に共有できる、地域活性化に向けた道標を定めるものであります。この指針に基づきまして、今後、茨木市全体として地域コミュニティの活性化の進むべき方向とするものであります。この指針策定にあたりまして、市民、専門知識を有する方、地域活動に携わっていただいている方々で構成いたします検討委員会のご意見をいただきながら、市長が平成 24 年度に策定を予定するものでございます。

まず、委員の皆様の選考につきまして、少し説明をさせていただきます。要綱に基づきまして公募による市民を 2 名募集いたしました。結果は 4 名のご応募をいただきまして、選考委員会で本日お見えのおふたりの方を選考させていただいたものであります。また、地域活動に携わっていただいている方につきましては、自治会、公民館、コミュニティセンター、青少年健全育成運動協議会、地区福祉委員会の団体に対しまして、ご推薦を依頼いたしました。学識経験者は、先ほど委員長選出の際にご説明させていただきましたように、立命館大学にご推薦をお願いいたしました。また、阿部副委員長につきましては、本市地域担当職員制度での職員研修会や茨木市自治会連合会での勉強会の講師にもお越しいただいた関係で、市からご依頼をさせていただいたものであります。以上であります。

○青木 そうしましたら、茨木市の現況ということで、資料 3 をご覧ください。人口等にもとづいたデータをご用意させていただきました。客観的なデータで、現状の茨木市は今、どのような状況にあるのかと、地域活動に携わっている方はございますので、お分かりの部分はありますが、少しイメージしていただければと思います、をご用意させていただきました。

まず初めの人口ですが、昭和 60 年頃 25 万人を超えました。しばらく横ばいでしたが、新しいまち彩都の開発等で増加し、現在は 27 万人を超え、ゆるやかでございますが、増加傾向にあります。

世帯数の推移でございます。1 世帯当たりの人数ですが、昭和 30 年当時と比較して、ほぼ半分、4.82 人が 2.45 人になっております。核家族化、単身世帯の増加を如実に表している結果ではないかと考えております。

次のページをめくっていただきまして、年齢別人口の資料がございますが、ご覧いただいてもわかるように、少子化、高齢化が着実に進んでおります。下の表で、近年、若い世代の人口増によりまして、少子化は少し持ち直しておるのが現状というところでございます。

次のページをめくっていただきまして、これは参考資料になるのですが、昼間流入人口、昼間流出人口を掲出させていただいております。少し流出超過になってございますが、高槻市などと比較すれば、昼間人口はまだ多くなっております。まったくの衛星都市ということでもないということが言えるのではないかと思います。また、先ほど斉藤先生からもありましたように、立命館大学の進出により、流入通学者が大幅に増加することも考えられます。

下の住居形態の変化でございますが、近年、持家比率が高まってきております。これは高齢化によるものが大きな要因であると考えられます。人口の移動が減少し、終の棲家

と考えられる方が増えてきているのではないかと考えられます。

次のページをめくってください。自治会加入率はここ十数年来、減少の一步をたどっております。この減少傾向については近隣各市につきましても同じような状況でございます。下の近隣市における自治会加入率の比較でございますが、本市も含めた三島地域の茨木、高槻、吹田、摂津は、豊能地域の箕面、豊中、池田地域と比較しまして、まだ、自治会加入率は高いほうでございます。

次のページをめくっていただきまして、各校区の人口数、世帯数を掲載させていただいております。茨木市にお住まいの方はよくご存じですが、茨木市の人口が密集しております中心部であります市役所周辺、少し北に上がった郊外の山麓部、一番北の山間部の位置づけがございます。人口構成も地域のつながりもさまざまでございます。

茨木市役所周辺の茨木小学校区、春日小学校区、中条小学校区、大池小学校区、中津小学校区などは人口 1 万人を超えています。山麓部は、山手台小学校区 40 年前ぐらいの開発になると思いますが、このあたりは一時 1 万人近くの人口がありました。ですが、今は高齢化が進み、人口も減少傾向にございます。その右下に太田小学校区というのがございます。東芝の大きな工場がございまして、今はそこが撤退の後、更地のままですけれども、下請けの倉庫ですとか工場がマンション、あるいは一戸建ての開発等で、人口が増えております。周辺部では唯一 1 万人を超えている校区でございます。山間部、2 つ小学校区があるのですか、忍頂寺小学校区、清溪小学校区がでございます。当然ながら、調整区域です。市街化がなされていない区域でございますので、人口も 1456 人、1252 人と、他の地域と比べてかなり少ないのが現状でございます。旧来からの集落が点在しており、人口、世帯数とも減少傾向になっております。

このような客観的な数字で今、現状が茨木市がどういう感じなのかをイメージを持っていただけたのではないかと思います。

資料 2 として、「市民協働で魅力あるまちづくり～地域会議を充実させよう」というパンフレットを用意しております。茨木市では地域担当職員制度ということで、平成 20 年度から、2 校区をモデル事業に進めてまいりました。現在、平成 23 年度におきましては全部で 5 校区を進めております。地域とのつながりを行政も大切にしながら、当該地域の横のつながりを深めていただき、地域全体として物事を考えていただけるようにということで施策を進めているところでございます。参考資料ですので、一度また帰っていただいて、目を通していただけたらと思います。水尾小学校区と沢池小学校区の事例も載せておりますので、こういう一体的な地域づくりが進んでいる、それから地域担当職員制度というのが行われているということの資料でございます。

それから、今後の予定につきまして、少しご説明をさせていただきたいと思っております。

資料 1 の中ほどからでございます。検討委員会の予定ということで、その下には本日 6 月 24 日(金)16:30 ~ ということで、第一回目の検討委員会について掲載させていただきました。

次のページにいつていただきたいのですが、概ね全 7 回程度で、一定の成案を持ちたいと考えているところでございます。進め方につきましては、市からのさまざまな資料、それから 8 月のところを書いておりますが、市民にも当然コミュニティに関する意識の調査等も行いまして、その結果を皆さま方にご報告をして、それらに対するご意見も頂戴しながら、一定の方向性を持ったものと考えているところでございます。最終的には来年の 3 月に皆様方のご協議、ご意見をもとに作成された成案をまとめていきたいと考えております。

簡単ですが、今後の予定等については以上でございます。

齋藤 はい、ありがとうございます。事務局から説明がありました、コミュニティ基本指針の概要等において、資料 2、資料 3、資料 1 の今後の進め方につきまして、何かご質問、ご意見等はございますでしょうか。

浜野 資料 1 の今後の予定ですけれども、本日は 16 時 30 分から 17 時 30 分と 1 時間となっておりますが、今後につきましてはもう少し時間をとられることを考えておられるのでしょうか。

青木 本日は第一回目でございますので、顔合わせという部分がございますので、1 時間と区切らせていただいておりますが、議論を活発にしていきたいと思っておりますので、1 時間と区切らずに設定していきたいと考えております。

上村 人口が増えてきて、所帯数も増えて、家を建てている方が増えているということですが、私たちの近所にも帝人の社宅の跡地に 220 ぐらいの持ち家が建っている、もう少し先にはカゴメが撤退した跡に 200 ぐらいの家が建っているということで、マンションよりもそういうかたちで、駅から離れたところに家が建つというのはこのごろ目立つのですね。カゴメの跡地はソーラーハウスになっていて人気があるのですが、外からの人口の流入が多いのでしょうか。

立命館大学さんが来られるということで、生徒数も人口も増えるかもしれないとおっしゃっていましたが、立命館大学の生徒さんはワンルームマンションで増えると見込んでいらっしゃるのでしょうか。ちょっとお聞きしたいと思います。

青木 帝人、カゴメにつきましてですが、昨今、マンションよりも戸建のほうがということで、市内周辺部は当然マンションが多いのですが、少し郊外になりますと、戸建の人気があります。当然、小学校も近いですし、そういう開発協議があれば、法等に基づいて対処しているところでございます。そこにいびつに人口が増えた場合は、例えば学区を少し変えるということは考えられます。

少し余談ですが、昨年のお話ですが、住みたいまちランキングというのがありまして、大阪府下でベスト 10 に入っていたのが、千里中央、茨木、梅田でした。当然、利便性も高いですし、少し奥に入れば自然もあるということで、市役所の人間がいうのはおかしいですが、まあまあ人気がある市です。

上村 他市からの流入も十分考えられるということですね。

青木 そうですね。

大西 今、現在、地域福祉計画とか、地域の高齢者の計画の策定中です。その中で、当然、ベースとなる人口動態の調査をしています。総合計画も3年先に作成予定となっております。工場転出もありますし、立命館大学の開校もあり、それを見据えて市としては今後の市の、これもそうですけれども、人口の推測予測は地域福祉とか介護の計画の大きな基礎となります。それで今、企画部門でまとめているところです。ある一定、この7回までの間にはそういうものの結果が出ると思いますので、その都度、会議で報告をさせていただきます。

斎藤 よろしいでしょうか。他にございますか。

そうしましたら、本日は5時半までということですので、もう少し時間がありますので、資料についての質疑応答がありませんようでしたら、皆様の問題意識などの交流という意味で、活気ある地域コミュニティをどういうふうに作っていったらよいのか、あるいは現状がどんな状況なのかについて、時間的には30分程度しかありませんけれども、少しフリートーキングでご発言をいただけたらいいかと思います。いかがでしょうか。では。

阿部 滋賀県の状況からお話をしたいと思います。私自身は、いわゆる市民活動、テーマ型の活動をされている方のサポート中心にした活動をしているのですが、それと共に、滋賀県内でのコミュニティ振興にも関わっております。例えば1市6町が合併した東近江市はだいたい12万人ぐらいの市ですけれども、そこが合併する時にコミュニティをどうするかということで、まちづくり協議会のしくみを取り入れました。その立上げ時から関わってきたりしております。同じように、1市8町合併した長浜市は、人口がそこも12万人ぐらい、広大な面積を抱えているのですが、そこにも関わっております。最近ですと、草津市にかかわっています。草津市は合併していませんが、ベッドタウン化して、かなり人口が増えていて、立命館大学の学生さんのワンルーム等、中心部は非常に都市化されています。その都市のコミュニティをどうするのかという話と、農村部も抱えていますので、そういったところのコミュニティはどうするのか。そういった意味では、規模はあそこも人口は12万ぐらいですから、茨木市さんの約半分以下で、人口は少ないのですけれども、たぶん問題意識はよく似ているのかなと思います。

学生さんをどうコミュニティにかかわってもらおうのかという話もたぶん入れていただけるといいかなと思います。あと、コミュニティで、例えば新興住宅地でも、戸建てのところはたぶんコミュニティは形成されるけれども、例えば中心部にあるマンションをどうしていくのかというような話。これは滋賀県の大津あたりだと、マンションはもう30年以上経っているようなところについては高齢化が進んでいて、マンションコミュニティの中でいろいろな助け合いとか、サロンとかをしているところが出てきています。

草津も昨年あたりからまちづくり協議会をつくり出しています。ここは校区と言われますが、滋賀県は学区という言い方ですが、同じです。小学校区単位で市民センター、公民館というのがあります。茨木市さんと同じかたちです。実情につきましては、皆さんからいろいろ教えていただきたいのですが、草津で一つ気づいたのは、我々のように、いろいろな福祉の活動であるとか、環境の活動であるとか、子どもに関わる活動というのは、NPO というのは地域を超えて動いていると思いきや、さまざまな学区単位でテーマ型の活動もかなり活発にあるということが草津のいろいろな調査をしている中で見えてきました。たぶん茨木も校区単位にそういう活動があるのかなという気がしますし、そういった実情を皆様から聞かせていただけたらありがたいなと思います。

斎藤 立命館大学の新しいキャンパスの開校は、2015年度以降に予定されています。現在、どの学部が移転するのかなどの将来構想を全学的に議論しています。

立命館大学の特徴ですが、他の関西圏の私立大学と比較して通学している学生数の比率が相対的に少ないです。学部によって多少異なりますが、ほかの私大と比較して全国各地からきた学生の割合が高くて、およそ5割ほどになっています。したがって現状では、立命館大学の学生の全員が大学周辺のマンションに居住するというわけではありません。だいたい半分くらいは関西圏の自宅から通学しています。

大学が移転する影響は様々です。たとえば経営学部が13年前に移転したBKCキャンパスのあるJR南草津駅は、学生の乗降客が増えてきたことも影響してか、今年の3月から新快速が停車するようになりました。また、学生向けマンションが駅周辺で増えましたが、居住する学生たちが地域に根ざしてまちのお祭りに参加するとか、ボランティアなどにも参加しています。このように、まちづくりの面でも、学生たちの参加が目指されています。京都では、もともと学生の比率が1割くらいあり、学生の街でもありますので、まちづくりへの学生の影響は、南草津よりも大きいと思います。

このように都市に学生が多いということで、地域の活性化にプラスに働く面をどう活かしていくのかが課題となります。もちろんマイナスの面もさまざまあるかも知れませんが、その辺についてはコミュニティをどう作り上げていくのかということについて、地域の皆様と考えていく必要があると思っております。

浜野 青少年健全育成運動協議会は、茨木市の場合、幼稚園から高校生までが対象ですが、健全育成協議会というのはその育成会の方の連絡協議会です。地域にいろいろな役員をさせていただいているのですが、例えば福祉委員会とか、コミセン委員会とか、すべて基本的には自治会から動いています。いろいろなところは自治会を土台に動いています。健全育成運動協議会の話をしてみると、まずは自治会との連携がうまくないところが多いです。半分くらいはあまりコミュニケーションがない。私のところは年1回、必ず、育成懇談会という会議がありまして、自治会長さんも半分くらい来ていますが、他のところは自治会長さんの参加がわりと少ない状況があります。今回、代表1人ということでしたので、とりあえず出席をさせていただいていますが、どこまで全体的なことを考えられるか心配なところもあります。

PTAの方は今回、おられませんが、PTAも自治会との連携が、あまりコミュニケーション

ンが少ないという状況です。自治会や実行委員会の委員がどのくらいまでコミュニケーションができているのか、地域のことになれば、そちらも考えていかないと、いざ何かをしようというときになると、協力をもらうところまでかなり距離があるようなこともあったりするのではないかと思います。

森下 地区によって違うと思うのですが、私は水尾校区というところで、今から40年前ぐらいにできた地区です。今、8団体が連絡協議会を作っており、その中に青少年健全育成会とか、福祉委員会とかPTA、自治会、防犯などの団体がコミュニティを作っています。8団体が活動するときはお祭りですべての人たちが一同に会し、協力します。地区あげての大変なイベントとして、お祭りがあります。非常に大きな行事になっていて、その行事に皆さんが一生懸命に参加し、それぞれの皆さんの顔を知ることになるし、先ほどおっしゃったように、自治会に入っていない方をどうするのかという問題とか、そういうものもそういうところに出てきたりします。私自身は自治会は絶対に入るものだと思っておりまして、そういうことを、茨木市に来られた方がおられれば、市民活動推進課の方から「地域に入られたら自治会というのがありますから、どうぞお入りください」と一言、言っていただけたらと思います。

何をするにしても回覧はすべて自治会でまわしますので、あぶれた人が何%かいらっしやる。その人たちにいかないのです。一番の問題は防災の問題で、何か起こったときにどうしましょうと、やはり防災は防災でいろいろとイベントをしているのですが、そのときの声掛けなんかも自治会員でなければやりにくいという部分があります。皆さんにお入りいただくことが理想的だと私は思っております。選択自由はもちろんあると思うのですが、「お入りいただいたほうがいいですよ」ということは言っていたきたいと思います。自治会というのは、高齢化すると本当にしんどくなります。しかし、地域に暮らす人の義務として、ゴミを出すにしてもゴミを片付けるにしても、その辺は権利と義務が裏腹にあると思います。その住民意識というのを、窓口で処理されるときに、「自治会にお入りいただくというのが通常になっています」と。「強制ではありません」は要らないのですね。そういうことで、窓口で推進していただくというといいなと思います。本当に自治会が基礎だと思っております。

原田 間違いなく自治会に入っていいただくことを全面に出してやらせていただいております。強制ができませんがということですが、自治会は基本だと思っております。

山口 行政の方とコラボねっとの方々のご指導で、20年からやっております地域職員制度の活動しております。いろいろなことを勉強させていただきました。おっしゃるように、地域は今まですべて縦割りでございました。青健協のお話も今、ありましたが、ほとんど横の連携がなかったのですが、いろいろとご指導いただきながら、今は横の連絡を取りながら、青健協にも私どもが直接入ってやっております。防災組織が昨年できました。今回、大きな災害がありまして、地域の方々が防災に関するいろいろな考え方で、今までと違ったもので、非常に時期的にいいという表現、非常に不本意ではございますけれども、一つのチャンスとして地域防災をもっともっと充実していこうというこ

とで、組織の公民館にせよ、福祉にせよ、青健協にせよ、PTA にせよ、4 月にその話を持ちかけると大変積極的に乗ってくれているわけです。ただ残念なのは組織に入っている役員の人たちだけの中でできているところで、実際は住民の末端のところまでそれが浸透するのが、これから日数もかかるだろうし、すべき努力もしなければいけないと思っています。徐々にそういうかたちの方に向かっていくことについては大変前向きでいけているのではないかと考えております。

今回、こういう検討会ができて、茨木はいろいろ地域の状況が違いますので、自治会のあり方が理想的なところとそうでないところがあると聞いておりますので、それがいろいろなかたちで活性化すればいいなと思っています。勉強をさせていただきながら、進めていければと思っています。

香川 同じ自治会の役員をさせていただいたのですが、茨木に住んでおられる方は親が住んでいたからそのまま茨木におられる方と、結婚とか転勤とか、最初から決め来られた方もおられますが、だいたいそういう方が多いと思います。我々のように、45 年～50 年、子どもといっしょに住んでいる方が多いのです。また、幸いなことに親がそのようになって、また子どもが結婚しても、いい地域なのでしょうけれど、子どもさんも同じ茨木市に住まわれている状況でありがたいなと思っています。我々の世代が一番多いのです。60 代、70 代の方が一番住んでいる方が多いので、終の棲家、昨年、一年間自治会の役員をしてそういう声が多かったです。これから人生長くなって、80 過ぎても茨木に住みたいと、住むにはいい地域であるような、そういう場所であったらと。若い方はどんどん来られますが、老人もいっしょになって考えていっていただけるような、そういうことを今後、入れていただけたらありがたいなと思います。

齋藤 ありがとうございます。

上村 私が 20 年くらい前にこちらに茨木に子どもの関係で来た時には、夏の祭りの時は女性たちが浴衣を着て夏祭りに皆が参加していたのです。それが 2～3 年するとなくなって、市民運動会の時にリレーの選手なんかもすごく出ていて、子どもたちも出ていて、楽しい運動会であったのに、なかなか選手集めも大変だということになってしまったりして、自治会活動が形骸化しているなと思ったのと、自治会活動をしている人の中ではいいのですが、入っているけれどもあまり何もしない人からすごく苦情があったり、非難があったりして、会長になったらとてもストレスがかかるという話もあったりして、どうしてそういうかたちになるのかなと。モンスターペアレンツじゃないけれども、言いたいことを言い過ぎる人もいるのかなということもあり、会長になりたくないとか、なかなかうまくいかないなと。私たちはマンションなので、理事会をつくって自治会には入らなかったのです。周りにいるお友だちの話を聞いていると、自治会活動から外れる人が多くてねという話が多くて、どこに魅力がなくなってしまうのかなというのと、個人主義になってしまったのかなというのがちょっと残念に思っています。そのところをもう少し考えていかないと、今 60%以上の自治会加入率はあるみたいですが、まだまだ減りそうなこともあるのかなと、これは維持したいなというのもある

ります。入って楽しかった、入ってよかったなという会であってほしいなとは痛切に思っています。

齋藤 ありがとうございます。

池上 彩都は新しく開発されている大きな都市ですけれども、今現在、茨木市のエリアで 7,000 人を越えたと。小学校でもパンク寸前だと。私はちょうどその隣に住んでいるのですが、非常に関係があるのですが、ある彩都を開いている不動産会社ですね、そこは地元住民、昔から住んでいる者と接しているわけです。それをなんとかコミュニケーションを図っていききたいという取り組みで一生懸命にやっておられるのですが、なかなかうまく住民が動かないのですね。古い地元の方々は人が入ってくるのをいやがる傾向がありますね。わずらわしいことにかかわりたくないという彩都側があるということで、そのコミュニケーションづくりが非常に難しく、乗り上げている状態なのです。新旧がつながるかたち、一つは例えば不動産会社が田んぼを購入しまして、そこに彩都の希望者を呼んできて、地元の者がそれをサポートしている運動をしているわけです。その中に、年間 3 ~ 4 回、かなりの人が入ってきて、交流が図られているのですけれども、今のところぐらいはそれぐらいです。ほかにやり方がないかと。意識がある人はなんとか交流を深めて、やりたいというのですけれども、そういう大きな壁と言うのですか、一般にはなかなか広がらない。

それからもう一つあるのは、コミュニティセンターをやりながら考えるのですが、私の担当している豊川コミュニティセンターですけれども、各豊川地区にある団体ですね、どこもいっしょだと思のですが、代表者が集まって運営委員会を作ってそういう組織になっています。そういうところで役員さんの交流はかなりありますが、それ以上の広がり、イベントですね、大きな力があるというのは。コミセンまつりとか、公民館と一緒にやって行ふるさとコミセン祭りというイベントをする、あるいはスポーツ振興課が力を入れてもらっている地区体育祭、そういうものには 1,000 人近い人が集まってきます。そういうイベントをまずやっていくことが一つの方法ではないかと経験から感じます。

岡野 地域コミュニティのお話はほとんど自治会とかという部分からの地域コミュニティを考えているのですが、一つ防災の観点から言いますと、非常に自治会という枠内では苦しいのかな。コミュニティを作っていくと、非常にしんどいのかなと。先ほどの資料もありましたが、防災という部分で考えますと、昼間は一番活動していただきたいような方は結構流出しているのですね。ある程度、流入もあるのですが、そうなったときに、昼間に何かがあった時には逆に流入してくる人間を活用するということが非常に大きな存在になる。そういうところでいきますと、いかに地域コミュニティ、自治会に、地域にある事業所さんをいかに取り組むか。何かあったときに、事業所さんの人材なり、資源なり、いろいろなものを活用するかで非常に大きな問題になってきます。これから地域コミュニティを考えていく上では、日ごろからいかに自治会の行事とかにも近隣に事業所さんに来ていただくかということで、いかにつながりを付けておくかと、いざと

なった時には事業所さんの力も貸してくださいというコミュニケーションが必要であるのかなと考えます。

そういう意味で、どちらかと言うと、私は事業所代表で出させていただいているところがあります。そういうのが必要かなと思っています。

秋元 私は公民館代表で出ているのですが、今、数年前から公民館をコミュニティセンター化にしようということで我々指導されているのですが、事実上、暗礁に乗り上げています。コミセン化というのはとんでもない話で、私は南茨木の近くの東奈良というところですが、ここは7割がマンション、3割が一戸建て住宅です。運動そのものの形態が違うわけです。ある一つの市の刊行物を配るにしても、戸建てであれば自治会とか班長さんとかが配っていただけるのですが、我々すべて公民館職員が配布しています。それも1階のポストには絶対入れてはだめ、11階の役員さんのところまで持ってあがらなければならないというのがうちの実情です。30ほどの自治会があったとしても、連合自治会に7つも入っていません。事実上、自治会活動は単独ではできても、まとまっては活動できない。東奈良地区のすべての事業、活動は公民館がしています。我々とシルバーの職員の3名しかいないわけです。いろいろと地域には団体がありますけれども、単独で行動しているだけで、まとまって行動することはないし、歴史的にもできていないし、できないような状況です。本来のコミュニティ云々という会議にこれから入っていくのですが、その時には大変失礼な意見が出るかもしれませんが、それはご了承願いたいと思います。非常にまちづくりそのものも大変なところで、すぐ支援、投書、電話、私の家にも電話がかかれます。そんな大変なまちです。そういう文句を言う人がものすごく多い。市も困っていると思います。

そういうところで館長13年していますが、正直、毎日が大変な状況です。あまりきれいなことを言いたくても言えないということです。

齋藤 自治会のことや地域のこと、イベントの話も出てきましたし、もう少し議論の中で具体的な状況について率直に議論し合う必要があるかと思っておりますが、次回以降、アンケートなどに基づく議論を進めていきたいと思っております。またアンケートの進め方についても皆様にさまざまなご相談をさせていただくことがあるかも知れませんが、その際はよろしくお願いたします。それでは、このあたりで本日の協議は終了したいと思います。

委員の皆様におきましては本日の説明や協議の中で、基本的な大きな方向性、指針の必要性については、ご理解いただけたと思っております。

今後は、事務局からさまざまな資料の提供（たとえば地域別の人口動態、住居形態、各種イベントの開催状況など）を受けながら、皆様のさまざまなご意見を頂戴して、よりよい指針の策定にむけて検討を進めていきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いたします。

それでは事務局のほうから事務連絡などについて説明をしていただきます。

青木 齋藤委員長からもありましたように、アンケート等、市民に対して取っ

たいと思っております。内容につきましても、皆様方のご意見を入れながら、考えておりますので、また会議録の確認と同時に送らせていただき、ご意見を頂戴するやもしれませんので、その節はよろしく願い申し上げます。

次回日程でございます。8月を予定してございます。お盆明けから下旬ぐらいまでの間で予定しております。皆さんがご参加しやすい曜日、時間帯を考えておりますので、できますれば、次回日程を決めていただければと思います。

齋藤 8月下旬ということで、アンケートを取り、アンケートに基づいて議論をするという意味でも、お盆明けの20日ぐらいでしょうか。

青木 お盆明けですと、18日(木)ぐらいから26日(金)ぐらいの間で皆様にご参加しやすい日程をご協議いただけたらと思っております。

齋藤 いかがでしょうか。

青木 8月23日(火) 午後3時~ということをお願いします。

齋藤 みなさんのほうから何かございますか。ないようでしたから、第一回の検討委員会をこれで終了させていただきます。本日はありがとうございました。